

校区は生きた勉強の場

河陽新聞

熊本市南部地区市民の会
発行責任者 村田幸博

今年もバードウォッチング

川尻校区では子供から大人まで四季折々色々な活動が行われています。今回は、川尻小学校の4年生を対象に十数年間続けられている野鳥観察会（バードウォッチング）の様子と、町民の皆様から要望のあった野鳥の種類を写真で紹介いたします。

川尻校区は緑川や加勢川をはじめ幾つもの川に囲まれ自然豊かな環境に恵まれています。これは、数多くの鳥と種類が見れる環境にあります。意外に思われるのは国の「キジ」もいますし、カワセミは数多く生息しています。

また、観察会の目的は野鳥だけでなく「春の訪れ」や「川尻八百年の歴史」を探し求めることも重要なテーマです。子供たちは、朝一番に小学校玄関に集合し、鳥の見分け方（大きさ・色・飛び方・鳴き方）の説明を受け、双眼鏡や図鑑を持参し学校を出発します。コースの途中には閻魔さんで有名な法性寺、薩摩の島津家の宿跡、また、ズイヨウの蒸気や香りは他の地域では味わえない季節感を体験できます。

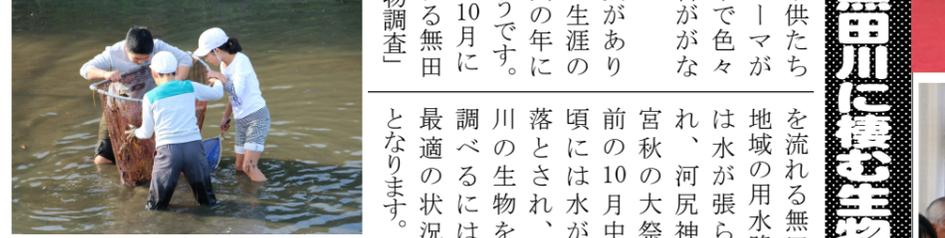


所要時間は2時間ほどのコースですが、子供たちには心に深く刻まれる川尻校区の生きた学習の場のようなです。

西南ロータリークラブから苗の贈呈

3月5日、加勢川の左岸河原に、昨年に続き西南ロータリークラブ（金子正一会長）と川尻小緑の少年団によるフジバカマの苗（60鉢）の植栽が行われました。今年10月10日～25日間は数多くの旅する蝶チョ「アサギマダラ」が飛来するものと期待されます。

川尻小学校の子供たちは、学年ごとにテーマが掲げられ地域の中で色々な取り組みや学習がなされています。昨年は熊本震災があり子供たちにとって生涯の記憶に残る想い出の年になってしまったようです。例年、5年生は10月に小学校の横を流れる無田川で「川に棲む生物調査」（魚とりの体験学習）が行われています。



11月29日、少し寒くなった気候の中で全員、足を川底に取られながら奮闘していました。川尻小学校の横



第64回川尻校区成人式 小学校の先生も感動の祝辞

今年で第64回目を迎えた川尻校区の成人式は、例年のように、正月3日午前11時から5町内の「料亭いわ村」で行われました。昭和28年に始められた川尻校区成人式は、開始以来、川尻公会堂の大広間で婦人会など地域の手づくり成人式が行われてきました。

公会堂が耐震工事中で、将来はまた川尻公会堂で行われるでしょう。今年「成人」を迎える川尻小卒業生は64人、参加者は32人でした。式場の右側には各町内の自治会や民生委員の方々と35名が列席され、左側には上記の写真のように小学校時代に関わられた先生5名、その後ろには、成人式を主宰された公民館の方々22名、それに校区の各種団体代表者20名で囲まれ成人の儀式が行われました。

また、成人者の後ろにはカメラやスマートフォンを構えた親御さんが最初から最後まで見守られ、まさに川尻らしい成人式の様子でした。

5年生は無田川に棲む生物の調査

取れた魚の中には絶滅危惧種のタナゴ類なども多くいますが、外来種が多さが気になります。

例え、上の魚取りの写真は、小学校から西に500mほどにある「がめぜき」です。この様な堰（せき）と橋が昔のままで使用されている場所など県内でも多くはないでしょう。

新しい自治協議会が動き出しました。川尻校区を町役場に例えると、自治会連合会の会長さんが町長さんといえます。さらに近年は、熊本市の各校区に自治協議会が設けられ、川尻校区では自治会連合会の会長が同会の会長さんです。前任は10町内の中村亮一会長でした。昨年からは12町内（川尻駅前周辺）の玉真勇一会長が選ばれ、若手のメンバーが事務局運営などされ活発になりそうです。

編集後記

20年ほど前、熊本市と姉妹都市のドイツのハイデルベルクに向いた事があります。とても印象的なことは河尻神宮の歴史と同地の築城が共に800年祭を迎える年でした。子供たちと一緒に町中を回っていると、至る所に歴史を語る場所があります。例えば、上の魚取りの写真は、小学校から西に500mほどにある「がめぜき」です。この様な堰（せき）と橋が昔のままで使用されている場所など県内でも多くはないでしょう。新生 南部市民の会を引き受け「河陽新聞」を再発行し、今度で21号、年に3回の発行ですから7年になりました。川尻校区も新たな時代を迎え、川尻校区自治協議会が新たな人々や運営で進められ、もっと多くの情報が伝えられることと期待しています（M）

川尻校区の

野鳥たち



さあ！ いくつ名前がわかるかな？



水辺の鳥

森や草原の鳥



- 水辺の鳥**
- カワセミ ● ウ
 - ミサゴ ● ヒドリカモ
 - コサギ ● マガモ
 - 黄セキレイ
 - 白セキレイ
 - アジサシ
 - コバン ● オオバン
 - オナガガモ
 - オオバンの飛ぶ姿
 - ゴイサギ
- 上の大きな写真はとて
も珍しく4種類のサギが
います。右から
- アオサギ (右前)
 - ゴイサギ (後ろの鳥)
 - シラサギ (全身白色)
 - アマサギ (黄色の頭)

- 森や草原の鳥**
- ◆ スズメ ◆ キジバト
 - ◆ キジ ◆ ヒバリ
 - ◆ ドバト ◆ ツグミ
 - ◆ カラス ◆ ホオジロ
 - ◆ メジロ ◆ ヒヨドリ
 - ◆ ウグイス ◆ アオジ
 - ◆ モズ ◆ イソヒヨドリ
 - ◆ シロハラ ◆ ムクドリ
 - ◆ ジョウビタキ ◆ オウ
 - ◆ ツバメ ◆ コゲラ

写真の提供

◎ 国土交通省 (緑川)
◎ 熊本市動物園
◎ 草野康文 (2町内)
◎ 村田幸博 (2町内)

川尻校区の野鳥の紹介

今回の河陽新聞では、ご要望の多かった校区で見られる鳥を紹介し、自然環境のパロメーターの一つとして、鳥の種類を上げることが出来ます。また、その逆として鳥の姿が見れない所は空気、エサや水など食料事情などが考えられます。まずは鳥になった気分です空から眺めてください。